

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 12 月 17 日 10:03AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,500～45,250 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,100

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～156.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.071

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターメディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます(4 年サイクル底)。

あるいは、8 月安値からは既に第(5)波の上昇が進行中かもしれません。

どちらの見方によっても、来年の日経平均は 42,426 円を上抜き、最高値を更新する可能性が高い、と思われます。第(5)波ターゲットとして[4 万 3000 円-4 万 5000 円]を想定しています。

日経平均予想 EPS の持ち直し基調は続いています。12 月 16 日には 2491 円と 10 月 5 日の 2514 円が視野に入っています。今後の動向を引き続き注目しましょう。



【日足 エリオット波動分析】

(プリファード(優先)カウント)

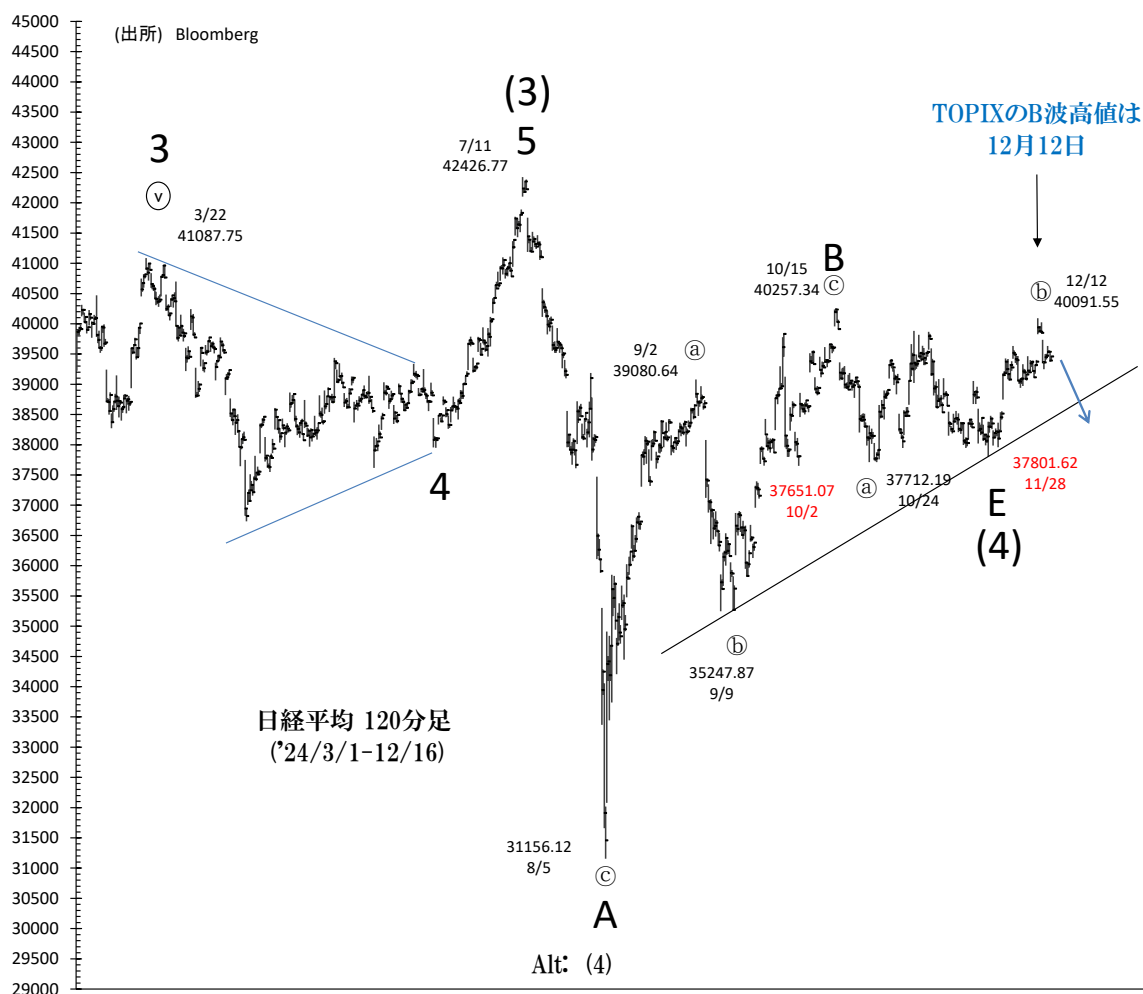
31,156 円(8/5 安値)からの上昇は、第(4)波中 B 波によるリバウンドです。それは 40,257 円(10/15 高値)を以て終了した、とみられます。また TOPIX の B 波は 2787(12/12 高値)を以て終了したようです。

12 月 12 日の「アイランド」は、短期的な下落入りを暗示しており、まもなく日経平均は急落入りとなる可能性があります。おそらく年明けにも 35,247 円(9/9 安値)を下回るでしょう。それは 8 月の「一番底」に次ぐ「二番底」になるでしょう。

その後は数カ月間のもみ合いとなりますが、その間に日経平均は上昇マグマを蓄え、もみ合いを上放れるでしょう。それは第(5)波による、当面最後の上昇トレンドとなります。

(オルタナティブ(代替)カウント)

31,156 円(8/5 安値)は第(4)波の終点底であり、そこから第(5)波による上昇が進行しています。この見方によると日経平均は「二番底」を付けることなく、じり高基調を続けるでしょう。そんな中、25 年の前半にも高値更新がありそうです。



【時間足 エリオット波動分析】

当面の日経平均の見通しは以下の二通りです。

[プリファード(優先)カウント] 35,247 円を下回り、「二番底」を形成

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]を形成中です。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波((a)-(b)-(c))によるリバウンドは 40,257 円(10/15 高値)で終わり、そこからは C 波((a)-(b)-(c))による下げが進行中です。

12 月 12 日に TOPIX は 8 月以降の戻り高値を更新しましたが、日経平均は 10 月高値(40,257 円)を抜けていません。二つの指数間にみられる弱気ダイバージェンスは、比較的大きな下落の可能性が高まっている示唆です。

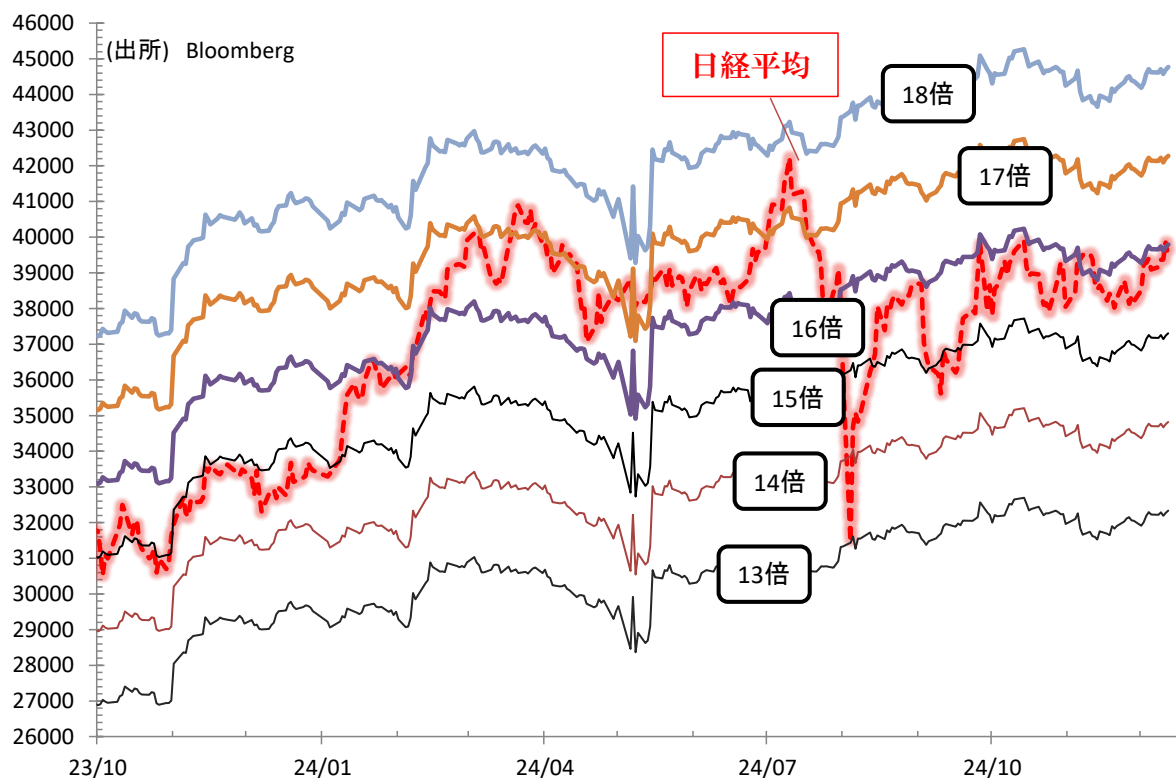
今後 37,801 円(11/28 安値)を下抜くと、C 波による下落基調が鮮明になるでしょう。最終的に C 波は 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月安値に次ぐ「二番底」を付けるでしょう。

[オルタナティブ(代替)カウント] 第(5)波は「エンディング・ダイアゴナル」

31,156 円(8/5 安値)からは第(5)波による上昇であり、そのパターンは波の重複が目立つ「エンディング・ダイアゴナル」です。

今後 42,426 円(7/11 高値)を上抜くと TOPIX との弱気ダイバージェンスが解消され、強気モードが戻ってくるでしょう。

[予想 PER 別の日経平均水準]



NY ダウ



【日足 エリオット波動分析】

22 年 10 月安値(28,660 ドル)以来の上昇(B)波は、[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]により展開しています。現行 Y 波を完成したのち、NY ダウは(C)波による下落に入っていくでしょう。

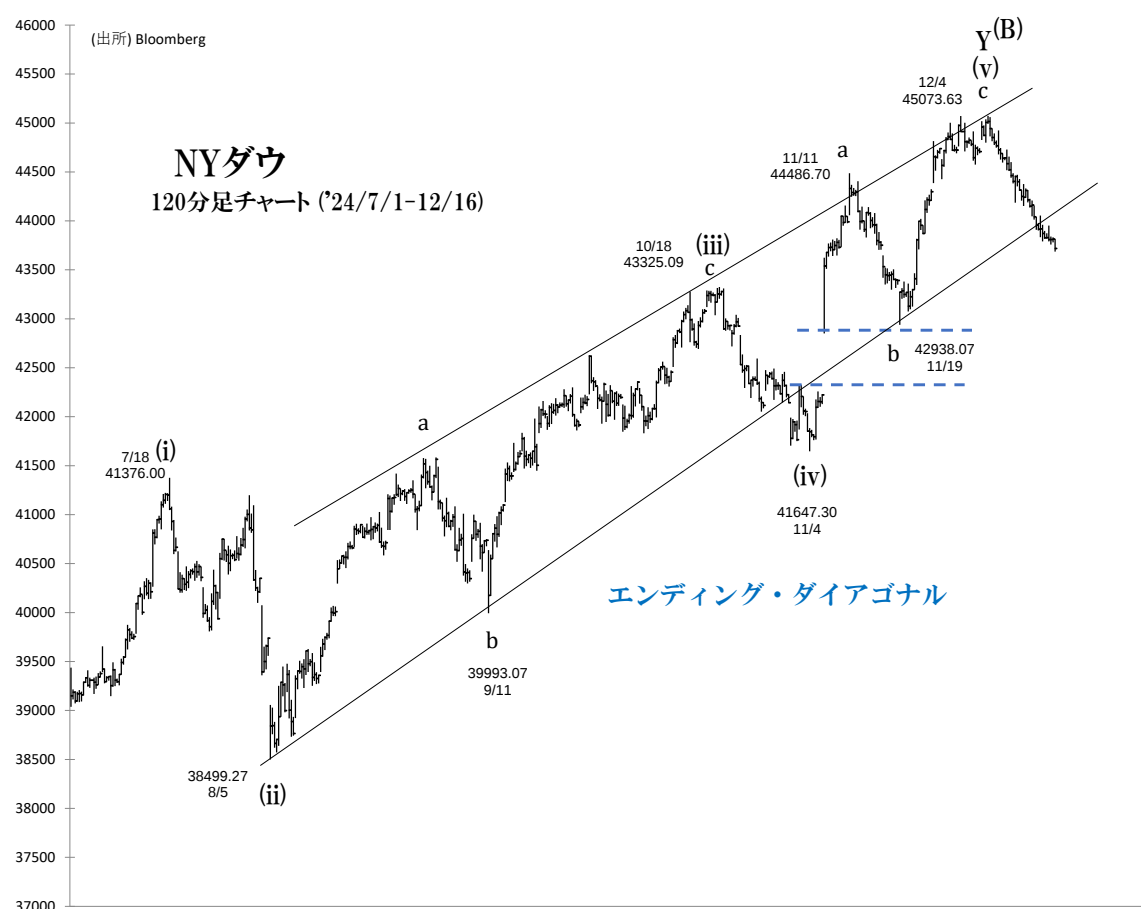
12 月 16 日まで NY ダウは 8 日続落。2018 年 6 月以来最長の続落で、最高値 45,073 ドル(12/4)から足元までの下げ幅は 1400 ドルに迫ります。ダウは三指数(工業株、輸送株、公共株)のすべてが足元で一段と下げを拡大しています。

一方ナスダック 100、ナスダック総合指数などは最高値を更新しています。

足元の物色の極端な偏りは、全体相場が天井圏にあることの証左といえ、今後の展開をさらに注意深くみていく必要があります。

42,938 ドル(11/19 安値)を下抜くと、4 月から続いてきた、高値と安値が共に切り上がるパターン(Higher-Highs, Higher-Lows)が途切れ、トレンド転換が示唆されます。

ひとたび(C)波が始まれば、それは先々、22 年 10 月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

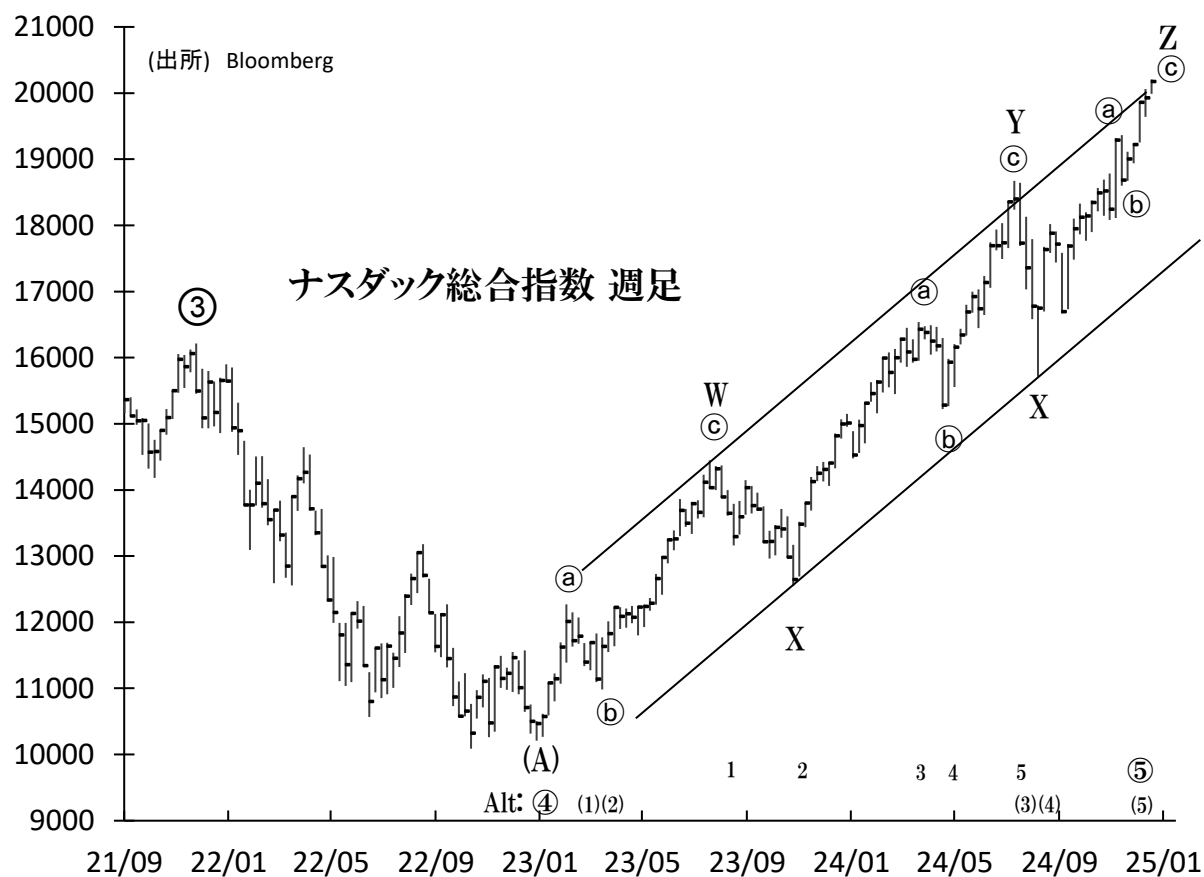
12月16日には8月安値からのサポートラインを明確に下抜きました。

次は42,938ドル(11/19 安値)を打診する流れに入った、とみることができます。

さらに、42,938ドル割れによりトレンド転換が示唆され、次は米大統領選での結果を受けて生じた11月5日～6日のギャップ(42,258ドル～42,850ドル)が試されるでしょう。

仮にギャップが埋められると「トランプ・トレード」終了が証左され、より大きな調整に—(C)波の調整に—備える必要があるでしょう。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

22 年 12 月安値(10,207)以来の上昇は、④-(B)波に位置付けられパターンは[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]です。(B)波完成後には(C)波による下落が始まりますが、それは(A)波(21 年 11 月～22 年 10 月、高値から 37%調整)と同等か、それ以上のスケールになるでしょう。

プリファード(優先)カウント①

15,708(8/5 安値)から、三番目のジグザグ(㉠-㉢)が進行中です。

波動構成は既に©波まで進み、22 年 12 月以来の(B)波による上昇は最終局面とみられます。

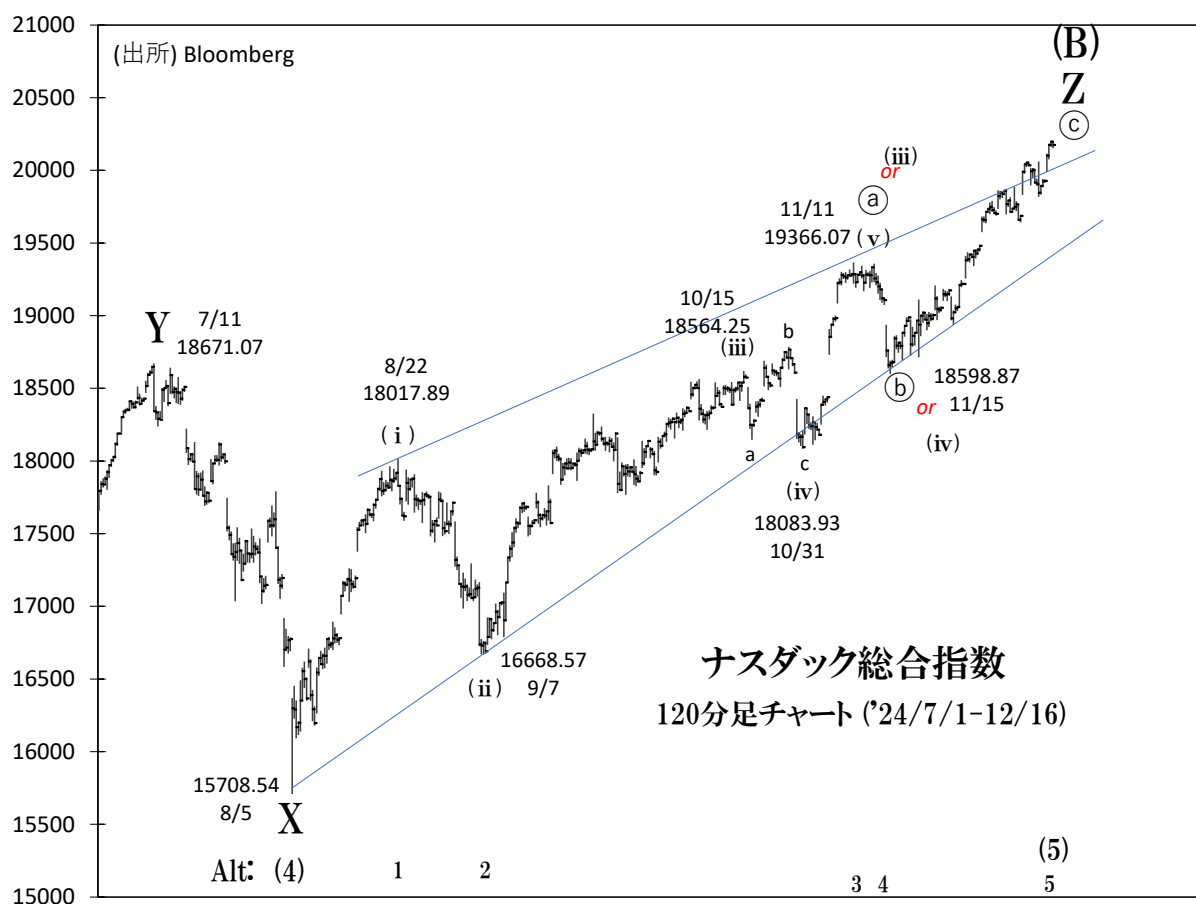
プリファードカウント②

(B)波のパターンは[ダブル・ジグザグ]+[ダイアゴナル]。15,708 からは[ダイアゴナル]による Z 波であり、それは既に終盤戦です。強気相場の終了が近い、とみられます。

オルタナティブ(代替)カウント

22 年 12 月安値からの「五波動」による上昇第⑤波は終わったか、終わりつつあります。

これによれば 25 年以降ナスダックは、優先カウントよりも深く、長い調整局面を迎えるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

18,598(11/15 安値)からは◎波による上昇です。

足元水準は、8 月と 11 月の高値同士を通る上値抵抗線を上抜いています。もっともこの動きは、**ダイアゴナル上辺を最終上昇波が上抜く、スローオーバー(throw-over) かもしれません。**

12 月 4 日に生じたギャップ(19,486-19,575)が埋められると、短期トレンド転換の第一シグナルが点灯します。この場合は 1 万 9000 水準を打診するでしょう。

もし 1 万 9000(8 月安値からのサポートライン水準)を明確に下抜く動きが生じると、トレンド転換の第二シグナルが点灯します。

15,708(8/5 安値)からの上昇パターンが[ダイアゴナル]とすれば、18,598(11/15 安値)から最終上昇第(v)波であり、それはまもなく終了するでしょう。

今後 18,598 を下抜くと、ダイアゴナル完成とみることができ、15,708 へ向け急落するでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

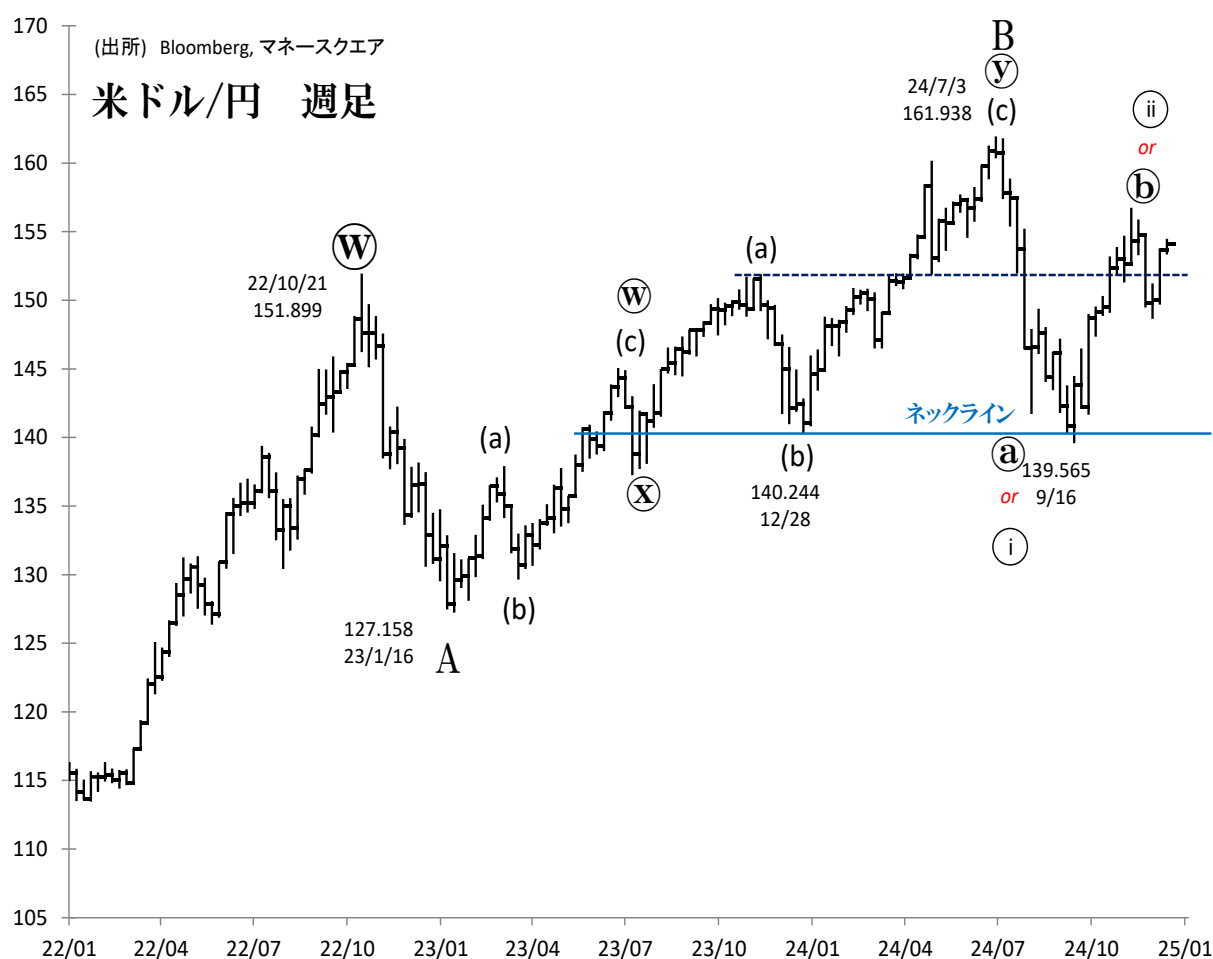
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

12月中、①の水準は135.400円に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。12月を通じ、②の水準は115.520円となっています。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。C 波の長さは A 波と同等か、フィボナッチ比率関係を反映します。

[137.197 円]…A 波の長さ(24.741 円)=C 波の長さ

[131.358 円]…A 波の長さ×1.236=C 波の長さ(30.579 円) (※)この時点でドル/円は月足サポート①を明確に下回り、以下の水準を目指す可能性が高まります。

[127.745 円]…A 波の長さ×1.382=C 波の長さ(34.192 円)

[121.907 円]…A 波の長さ×1.618=C 波の長さ(40.030 円)

23 年後半からのチャートパターンは、140 円処をネックラインとする『ヘッド・アンド・ショルダース(三尊天井)』とみられます。今後ネックライン割れをきっかけに、ドル安・円高の流れが強まると想定されます。



【日足 エリオット波動分析】

156.740 円(11/15)以来、◎波の下落基調(ドル安円高)が進行中とみられます。

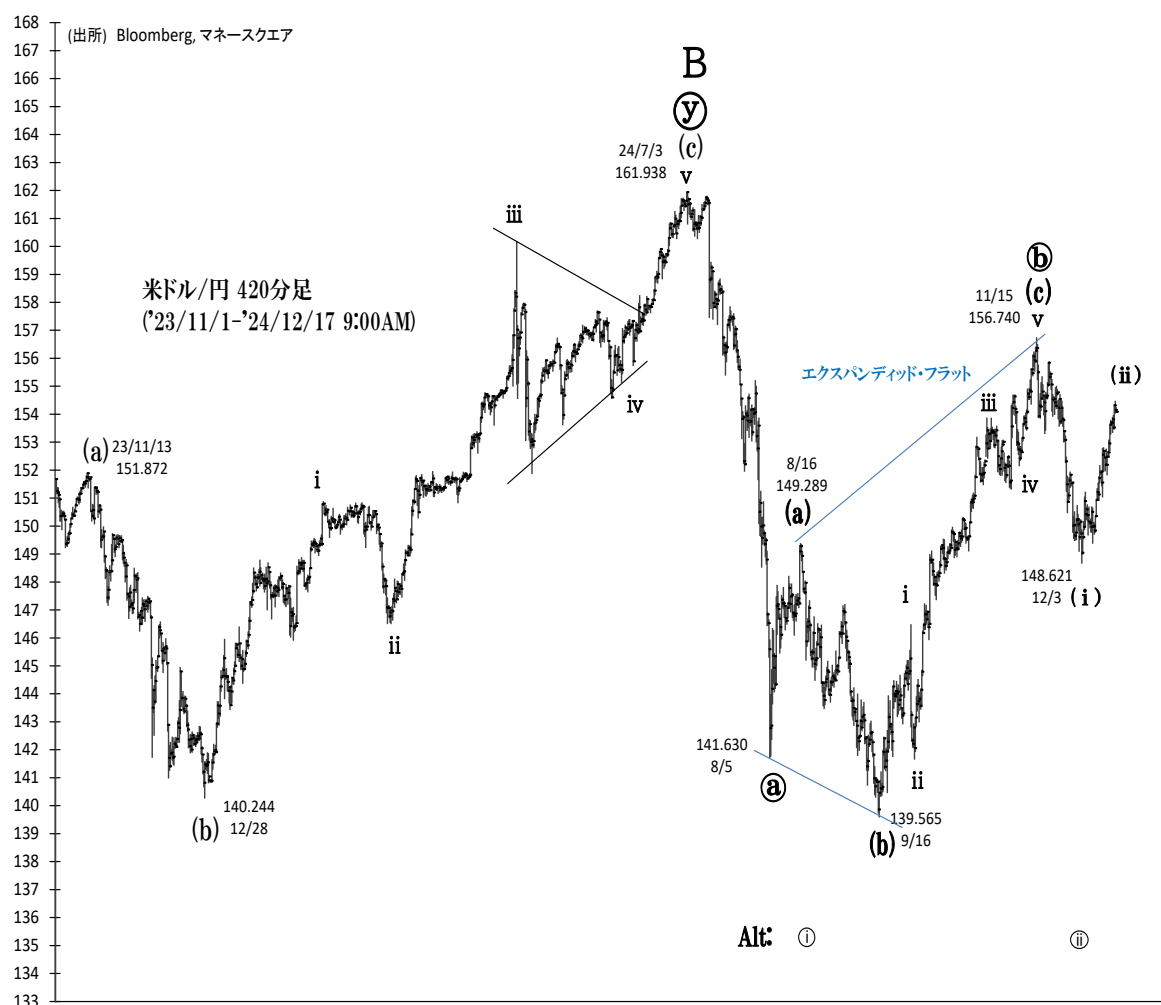
足元は 200 日 MA (152.140 円)を上回って推移していますが、**リバウンドは近々終わり、ドル安円高基調が再開する見込み**です。25 年には 139.565 円(9/16)を大きく下抜くとみています。

【時間足 エリオット波動分析】

148.621 円(12/3)からドル/円は反発していますが、これは◎波中第(ii)波による戻りとみられます。

既に第(i)波の 61.8%戻り水準を超え、78.6%戻り水準[155.002 円]も視野に入っていますが、**第(iii)波によるドル安・円高は目先のにも始まっておかしくないでしょう。**

ひとたび第(iii)波が始まれば、**ドル/円は早々に[146.125 円](61.8%押し)を打診する可能性が高い、とみています。**

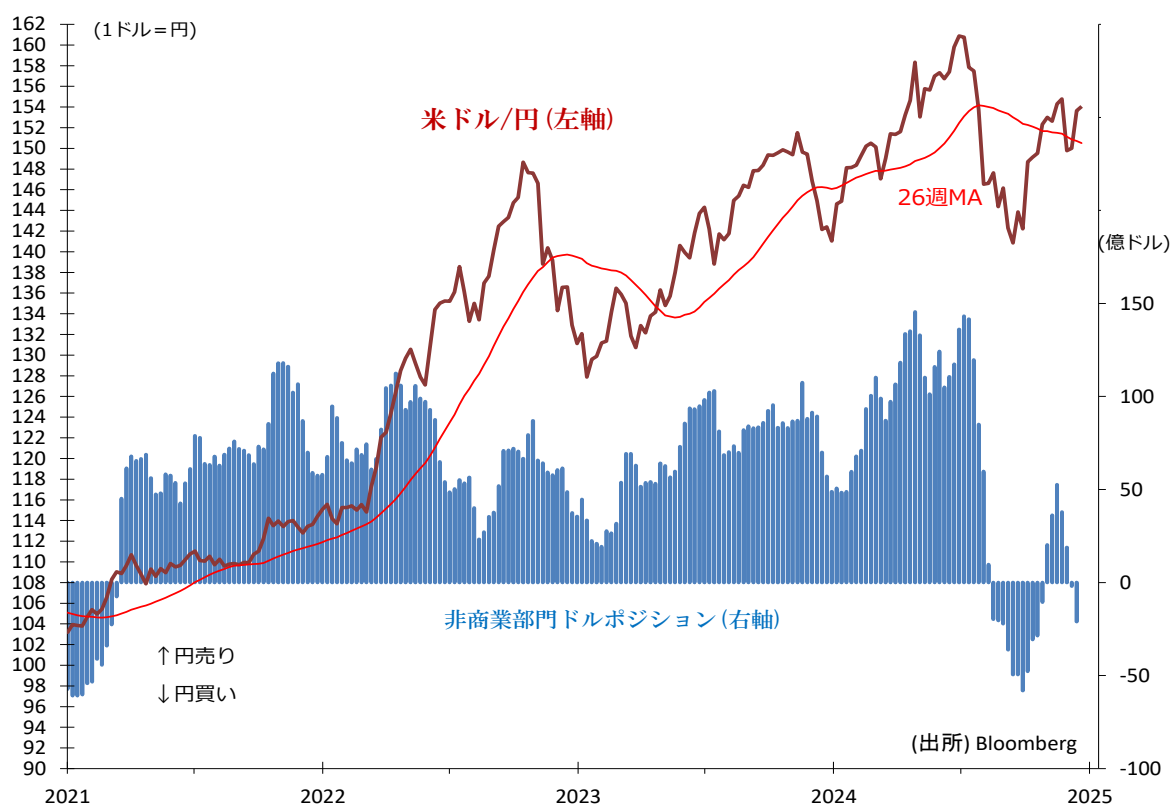
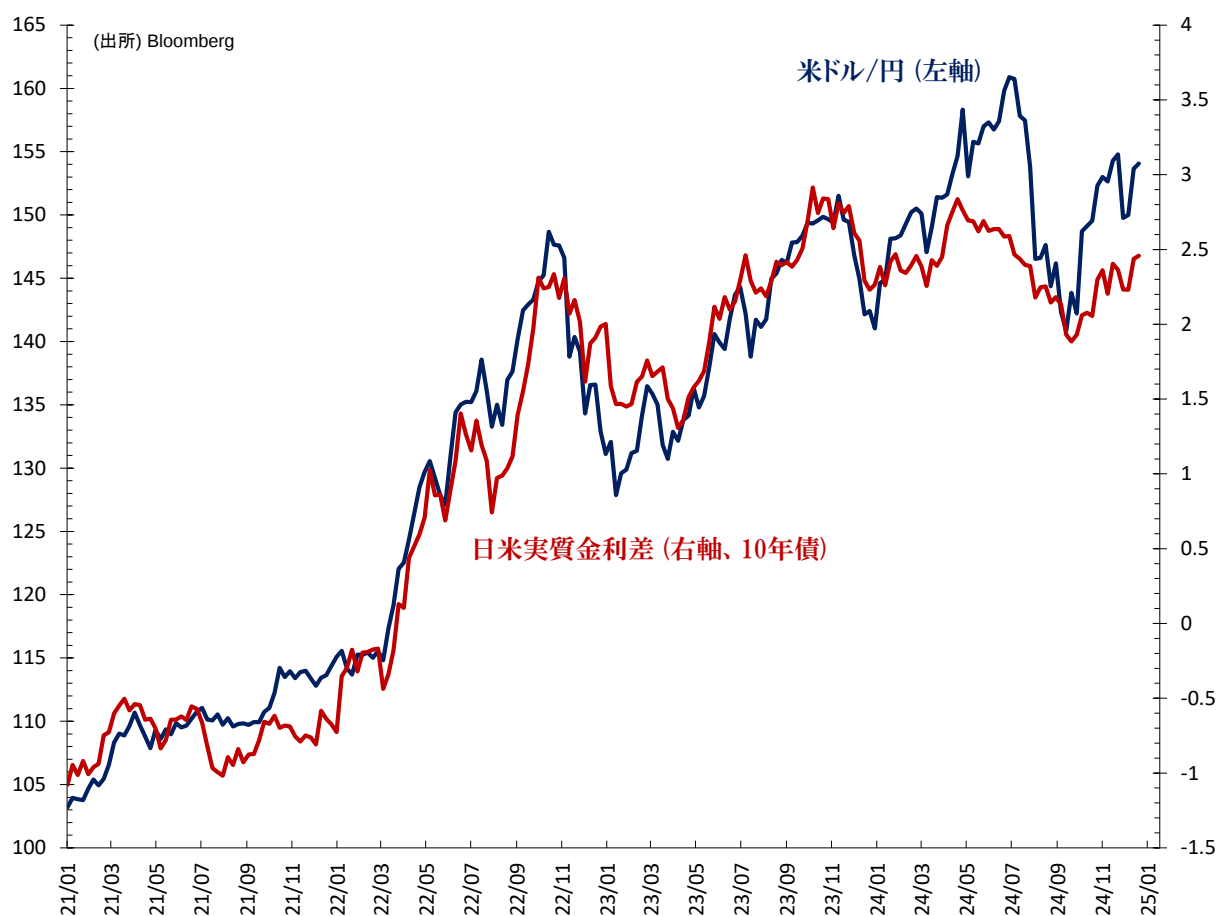


金利差からのドル/円推計値

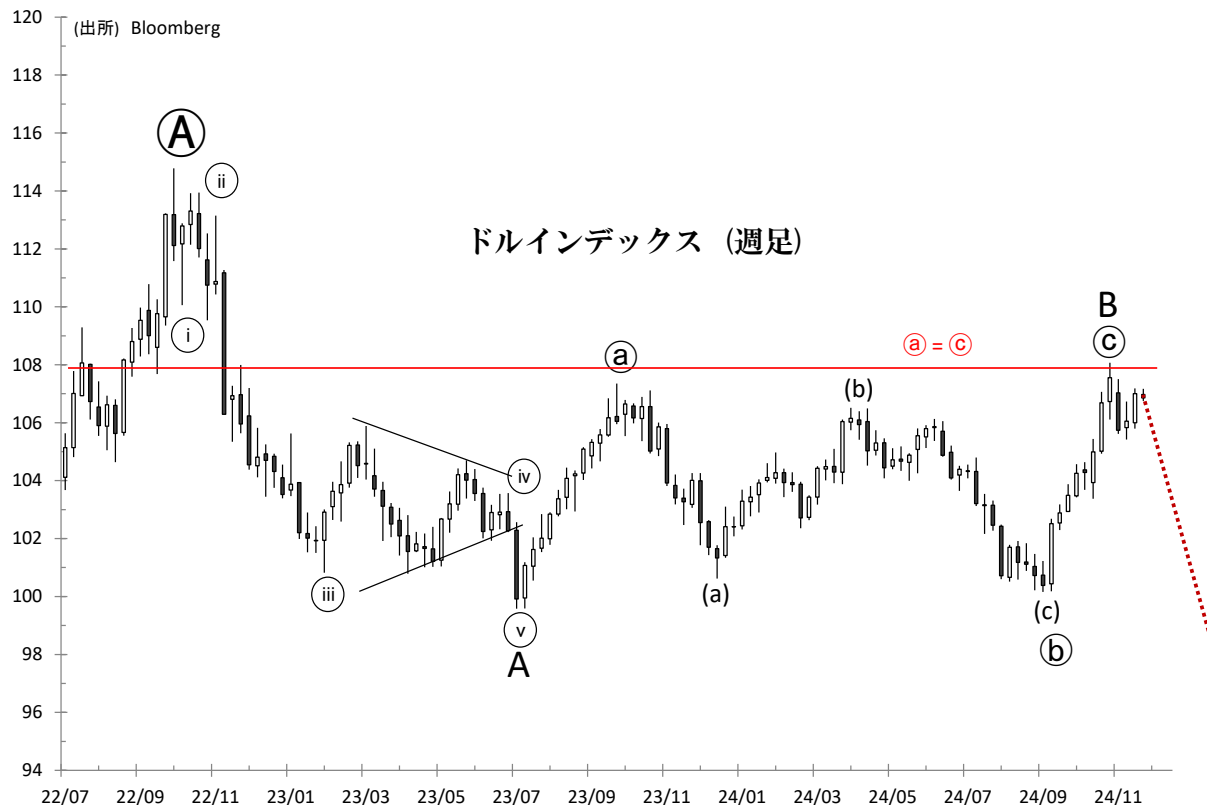
日米実質金利差からのドル/円推計値は[148.68 円]です。

投機筋の円買い持ちが拡大(12 月 10 日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)の円買い持ちポジションが、前週(1.9 億ドル)から 20.95 億ドルへ拡大しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックス(ドル指数)は③波(A-B-C)による下落局面にあります。

23 年 7 月安値(99.578)以来続いてきた、「[フラット]」(a-b-c)による B 波は、108.071(11/22)を以て完成した可能性が高い、とみています。

例年 12 月はドル安傾向が強い月として知られ、**今年も年末に向けドル安が強まる可能性があります。**今年最後の FOMC 後の会見(日本時間 19 日未明)における、パウエル FRB 議長からの発言内容が注目されます。

C 波によるドル安が始まった、とすれば 25 年には 23 年安値[99.578]を大きく下回るでしょう。

③波は最終的に、[90.930]、[89.209]を試す可能性があります。前者は A 波と C 波が等しく下がる水準、後者は 21 年 1 月に付けた、④波のレサラー・ディグリー(4)波安値です。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
